

## 1 研究主題

# 自他のよさに気づき、豊かな生活を創りだす子ども

## 2 主題設定の理由

今、子どもたちは少子化・核家族化、地域コミュニティの弱体化・急激な情報化といった社会の変化のもとで、人間関係の希薄化や自然体験・社会体験の不足など様々な難題に直面している。このような中、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、個性の伸長を図り、豊かな人間関係を築くとともに、社会性を育むことを図る特別活動は、今まで以上に大きな役割を担うとも言われている。

特に、近年の子どもたちには、自信を持って自分の思いや考えを相手に伝える力が不足していたり、相手の気持ちや立場になって、考えたりすることが苦手な傾向がある。集団活動においては、自分たちで協力して物事をやり遂げたり失敗を乗り越えたりするたくましさ欠缺していることも課題としてあげられている。このことは、本校の児童にとっても当てはまるものである。これらの状況から学習指導要領の基本方針である「生きる力」の理念を大切にしながら、豊かな人間関係や社会性を育成することが強く求められている。

上記のような社会や子どもの状況を踏まえて、特別活動の授業改善として、次のようなことを大切にしていかなければならないと考える。①学習と生活が密接に結びつく授業。②学習を通して、子どもたちの生活が少しでもよい方向に変容することを意識した授業。③その子なりの思考・判断・表現を生かし、他の意見のよさにも気づくことを大事にした授業、などである。しかもこのような授業は、特別活動はもちろんのこと、他教科・領域における授業でも大事にされてこそ、豊かな人間関係や社会性が育まれていくものと考えている。

以上のことから、本校研究主題を設定した。

## 3 研究の構想

### (1) 主題について

前述のような社会背景・本校の子どもたちの姿等から、学校生活におけるすべての教育活動を通して、「為すことによって学ぶ」という特別活動の本質を改めて大事にしていきたい。

#### ○「自他のよさに気づく」とは

特別活動の領域だけではなく、他教科・領域とも連動させつつ、他の考えを尊重したり、あるいは自分の考えに確かさを持ったりする授業の中で育まれるものである。その子ならではの考えや表現に向き合い、互いのよさを認め合うことである。このことは、「人間関係」や「自己の生き方」「自己を生かす」ということに結び付くものと考えている。

#### ○「豊かな生活を創りだす子ども」とは

自他のよさに気づき、互いに認め合う授業を積み重ねていくことで、次のような「豊かな生活を創りだす子ども」が育っていくと考える。

- 仲間と進んでかかわろうとする子ども
- 学校生活や学級生活における諸問題を自分たちの力で解決しようとする子ども
- 自分への自信をもち、自主的・実践的によりよい生活や人間関係を築こうとする子ども
- 自分の生き方をふり返り、現在の生活を改善しようとする子ども

このような姿をめざし、望ましい集団づくりのための指導・支援のあり方を構想していく必要がある。**計画**—**実践**—**ふり返り**といった一連の学習活動の中で、それぞれの過程において、個や集団に働きかける指導・支援のあり方を明らかにし、意図的・計画的に積み上げていくことが必要である。

## (2) 研究の3つの視点

### 視点1 <生活から立ち上げる議題提案>

- 子どもたちの生活に密着した自分事を問題として議題化することは、子どもたち自身にとっての必要感があり、現在の生活をよりよくしようとする意識につながる。よって、日常生活の中から議題を表出させていくことを大事にする。
- 議題がより自分事としてとらえられるように、他教科・道徳等との関連を図る。

### 視点2 <相手意識や目的意識を大切にしたい話し合い活動>

- 「誰のために」「何のために」といった、めあてを明確にする。
- 今よりも、よりよい生活を創っていくための、自己決定や集団決定のあり方を大事にする。特に集団決定では折り合いのつけ方やその意義を探るために、考えの根拠となる理由を大事にしていく。
- 各教科の言語活動の充実を図ることにより、意見を聞いたりまとめたりする話し合い活動にかす。

### 視点3 <よりよい自分・集団への高まり>

- 体験活動を通して気付いたことをふり返り、まとめたり発表し合ったりする活動を大事にすることで、次の活動へ向かう意欲を高める。
- よさや課題の可視化等により、子どもたち自身が、常によりよい生活へ向かおうとする意欲を高めていく。

## 4 研究の方法と内容

### (1) 研究の方法

各教科の授業・学級（学年）経営を核としながらも…

- ①学級活動を含む各教科等の授業においても、「思考する場面」「判断する場面」「表現する場面」を意識した授業を行う。（言語活動の充実とリンク。研究の日常化）
- ②学校行事や児童会、各教科の学習においても、子どもが子どもに学ぶ場面の設定を意図する。
- ③学習の足跡や見通しの可視化に努め、子どもたちの「今」を把握する。
- ④議題が子どもたちのものとなるように、子どもたちの生活（くらし）と学習を関連付ける。
- ⑤事後研や各種の研修会（子どもを見る目、育てる手法等の可視化、研究だより等の情報提供など）を通して、子どもの姿をみとる。そこから、あるべき指導者の姿として必要な力をつける。

### (2) 具体的な授業のイメージ（≡学級会化）

※別紙①参照（教科の学級会化、サッカー型の授業あたり）

## 5 研究組織

研究推進委員（教頭、教務、○高橋圭、三浦、軽部、宮坂、石川、高橋純、石山）

## 6 研究計画

別紙② 参照

## 7 研究全体構想図

別紙③ 参照

## 8 その他

(1) 指導案形式 後日提案

(2) 11月1日（金）の東北公開に向けて 後日提案

## H25研究計画(日程変更あり)

			低学年		中学年		高学年		特別支援	備考	
月	日	(曜日)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	おひさま なかよし		
4	3	水	研究推進委員会 (今年度の研究の方向性 他)								
4	5	金	研究全体会①(研究の方向性等)								
4	30	火	研究全体会②(指導案等詳細)								
5	27	月				4年		6年		授業研究会① 文科省：杉田 市教委：	
6	17	月		2年					おひさま なかよし	授業研究会② 山形大：野口 市教委：	
7	10	水	1年				5年			授業研究会③ 山形大：野口 市教委：	
7	23	火	研究推進委員会								
7	25	木	研究全体会								
8	16~20		指導案決定								
9	18	水	研究全体会								
9	25	水			3年				おひさま なかよし	授業研究会④ 山形大：野口 市教委：	
9	27	金	研究全体会								
10	7	月	研究全体会								
10	31	火	東北特別活動レセプション(午後より、教頭他〇名参加)								
11	1	金	1年	2年	3年	4年	5年	6年		各学年発表	
助言者											全体指導・助言 文科省：杉田
未定(指導)											
12	10	火				4年				授業研究会⑤ 山形大：野口 市教委：中田	
12	24	火	研究全体会								
2	19	水									授業研究会⑥ 奈須先生～
			連絡1	予定なので、日時の変更が予想されます。また、研究推進委員会や研究全体会等、必要に応じて入ることがあります。							
			連絡2	2月19日ごろの授業研究会は、奈須先生の件なので、未定です。							

◎基本ラインとして、11月1日前までに、各学年とも1回は指導主事招聘授業研究会(大研)を行う。

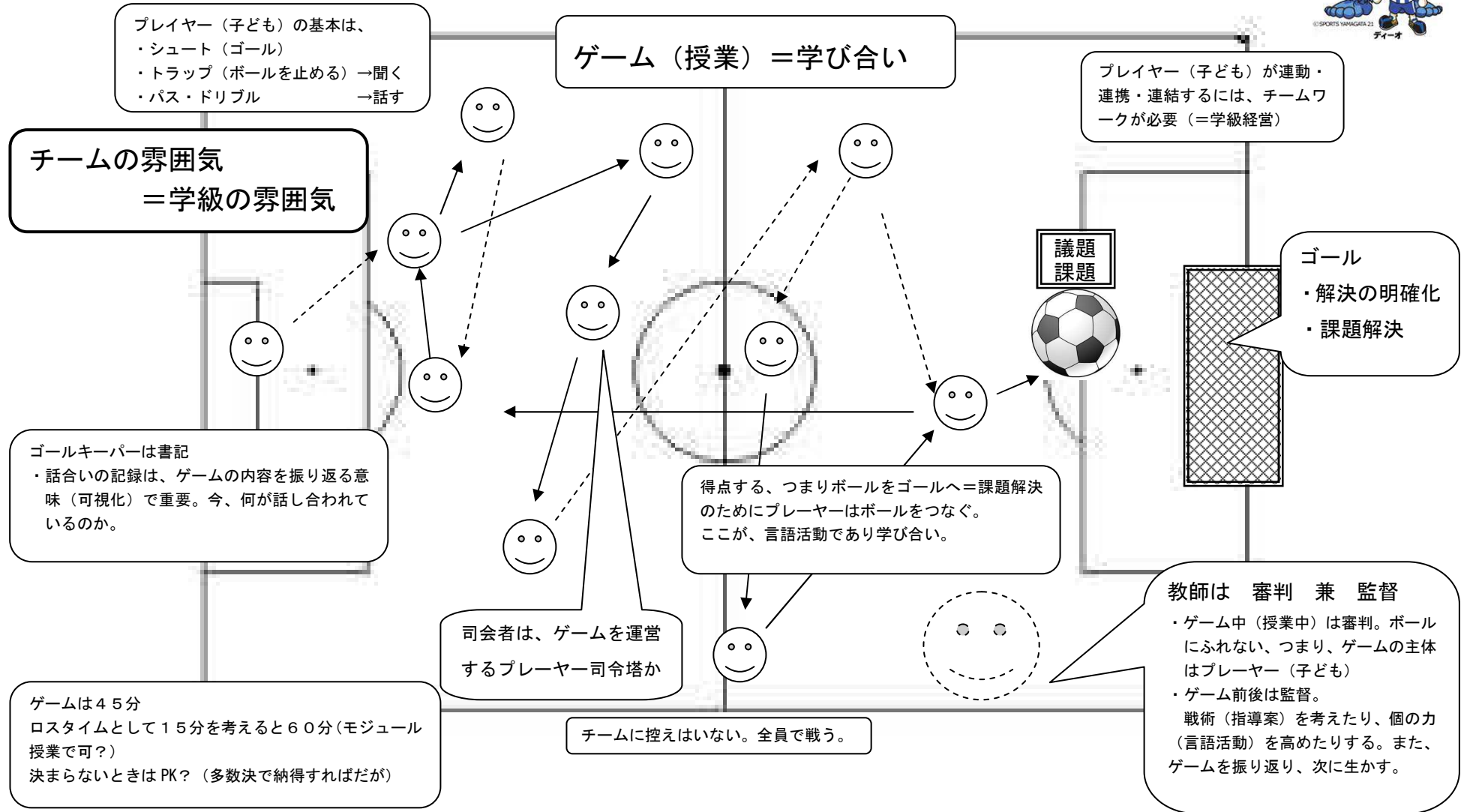
◎5月6月は、クラス替えのあった学年は除く。また、11月1日なか・おひは公開しない。

■全体会が終了したい、授業者をすぐに確定してください。

■学年で、ご指導いただきたい先生がいましたら、教えてください。



◎今年のモンテのチームテーマは、**信**（進化し、深化し、真化する）（神） これはそっくり授業に当てはまる。



## ■授業について

- 「議題」「めあて」は 子どものもの
- 「ねらい」は 教師のもの
- 本音が出る話し合い活動 → やっぱり教科・道徳との関連 いつもの授業（生活）が学活に出る
- 話し合い活動をやってよかったという経験を積む。話し合い→やってみる→ふり返り  
↑ここの感覚を短く（旬をとらえる）
- 年間計画を、学級経営案と同時に立てる あくまでも案 見通す（教科・児童会・行事等との関連）

<12月25日の研究全体会がすべて>



- 年間計画の整備 今年度の学級経営案より特別活動の部分をピックアップし、来年度に生かす（鈴木）
- 指導案の整備（鈴木）  
（評価規準を入れていく）
- 共通事項（1）を基本としつつ、（2）も1～2授業程度 入れていく。（11月1日の話）

## ■授業外（学校生活）の部分で

- ・校内研究テーマを職員だけでなく、子どもが共有する（どの子ども言えるようにする）  
自他のよさに気づき 豊かな学校生活を創りだす  
→●「自分を大切にする」●「友だちを大切にする」●「今より成長」など
- ・子どもが子どもから学ぶ場・時間を確保 → 教師の意識改革 → 子どもに任せる場を（工夫を）
- ・新しいことをやるのもよいが、まずは、既存の中で「子ども主体に」できないかを問う  
やらせるという意識ではない  
⇒ 自分たちの社会（長岡小学校）を自分たちの手で構成させていく意識  
（みんなに期待している・みんなを信じている）

(例) <朝会>

朝会まで … 先生が連れてくる・並べる → 6年生に場を与える

朝会の並び方 … 学年ごと整列 → たてわり班では？

朝会の準備・進行 … 先生が司会 → 子どもでは？（放送委員会とか）

<図書委員会>

朝の読書タイム … 子どもから子どもへの読み聞かせ（紙芝居） アニメシオンゲーム

<給食委員会>

1年生の配膳もしくは後片付けの手伝い … 1年担任と相談の上 やってあげるではなく見守る

<掲示広報委員会>

一日（一週間・月暦の予定）等の予定黒板記入 … 昇降口に掲示板を準備 見通し育成

学校生活の中で、子どもが活躍できる場はないか？？？意識転換

子どもたちの活躍の場はないだろうかを問う 姿勢

… 子どもの社会だからこそ 子どもたちに運営を

## ■来年度早々に

- ・授業者確定 今年度の実践を修正しながら 学年で 年間計画の作成
- ・6月までの間に 数回 同学年の授業参観  
… 教師と子どもの関係 子どもの関係性の把握  
単元の中で、必ず子どもに任せる場面を作る授業づくり